

【服部】学校再編に係る地域説明会 概要

【日時】 2016年（平成28年）11月6日（日） 14:00～16:40

【場所】 服部小学校 体育館

【参加】 参加者 97人（傍聴14人を含む。）

行政 16人（教育委員会：教育次長，管理部長，学校教育部長

市民局：まちづくり推進部長，北部支所長 他）

【内容】

- 1 開会
- 2 あいさつ（教育次長，服部学区自治会連合会会長）
- 3 学校再編について（説明：学校再編推進室長）
 - ・学校再編の目的
 - ・これまでの保護者との意見交換の状況
 - ・再編にあたって
 - ①通学支援 ②通学時の安全確保 ③新しい学校生活に向けて
 - ④障がいのある児童への支援 ⑤特色ある教育活動の継承
- 4 意見交換（約120分）
- 5 閉会

地域・保護者から出された主な意見と回答

（学校再編に関すること）

○再編の時期を2020年度（平成32年度）までの早い時期と言っているが，地域住民が反対しても再編するというのか。

→（回答）

学校は，子どもの増に合わせ，これまで新增築してきた。今は，少子化が進み，子どもの数はピーク時の6割にまで減っているが，学校配置は従前のままである。学校の小規模化は深刻であり，子どもたちには，多様な友だち関係の中で学んでもらいたい。再編は避けては通れない。

学校再編の問題は，地域住民・保護者との議論を尽くすという姿勢で臨む。しかし，再編の問題をいつまでも長引かせ，先行きが見えないという状況は，保護者，地域，子どもたちにとってもよくないと考えている。議論を整理し，焦点化しながら，理解が進むよう努力する。

○再編までに今後5年間の猶予期間を設け，空き家対策など，学区と市が協力して，服部の人口・児童数を増やす取組をしてから考えてはどうか。

→（回答）

まちづくりや地域振興策を考えることは大切だが，今後学校をこのまま残せるほど，児童数が短期間に増えるということは，現実的には難しいと考えている。

○最終的な判断は誰が行うのか。

→（回答）

議論をしっかりとした上で，最終的には行政が，その責任で判断すべきと考えている。

○再編した学校の校名はどうなるのか。

→（回答）

再編区域の地域や保護者で構成する開校準備委員会で，まずは協議していただくことを考えている。

(教育に関すること)

○服部小は小規模だが、どこの学校にも負けない教育をしている。地域も協力して、少人数でもいろんなことが学べる素晴らしい環境がある。小規模校でもコミュニケーション能力などは身に付く。一定の集団規模がある方が、子どもたちの教育にとって良いということが納得できない。

→ (回答)

グループ学習やグループ間討議など、授業に深まりや広がりを持つ学級規模にすることで、「主体的・対話的で深い学び」ができる授業づくりが可能となる。これからの子どもたちには、こうした授業展開を通し、自ら課題を見出して解決する力が求められている。一定の集団を築くことで、授業や学校行事、友だちとの交流に広がりを持つ。また、一定の学校規模にすることで、教員体制の充実も図られる。

○児童数が多いといじめは見抜けない。学校を減らすことよりも、いじめをなくす取組をしてほしい。

→ (回答)

学校規模に関わらず、いじめが起きる可能性を常に念頭に置いて臨む必要がある。

「いじめは絶対に許さない」という姿勢で、定期的な面談、アンケートなど、様々な取組を進めており、引き続き取り組んでいく。

○学校再編後、大人数に馴染めない子どもへの対応はどうなるのか。行き場がなくなる。

→ (回答)

指導員や非常勤職員の配置をするなど、きめ細かな取組となるよう努めている。どうしても集団に馴染めない子どもたちへの対応は、再編とは切り離し、別に検討したいと考えている。

(まちづくりに関すること)

○まちづくりの単位はどうなるのか。

→ (回答)

地域の考えにもよるが、従来どおりを基本と考えている。

○公民館はなくなるのか。

→ (回答)

従来どおり、現在の小学校区単位で維持していく。

○学校がなくなると、過疎化が進み、若い人が地域に入って来られなくなるのではないか。

→ (回答)

地域が主体的に取り組もうとされていることに対して、これまでどおり行政の支援を行うとともに、より魅力のある地域にするため、ともに知恵を出し合いながら取り組んでいきたい。

○福山北産業団地第Ⅱ期事業の計画はどうなったのか。

→ (回答)

リーマンショックの影響で事業を一時中断している。昨今の経済状況を踏まえ、2009年(平成21年)に策定した基本計画の修正を行った上で検討することとしている。

(その他)

○再編の前に、子どもを生き育てやすい環境を整えるなど、行政としてやるべきことがあるのではないか。

→ (回答)

子どもを生き育てやすい環境づくりに向け取り組んでいる。(保育所の)待機児童はゼロであり、周辺の自治体より出生率は高くなっているが、少子化に歯止めがかからない厳しい状況がある。引き続き努力していく。